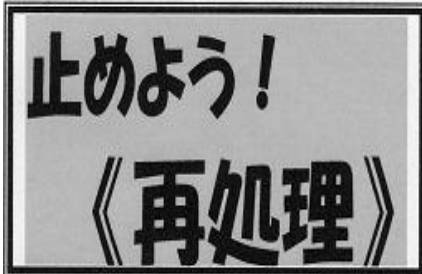


**三陸の海を放射能から守る**  
**岩手の会** (略称) 三陸の海・岩手の会  
 郵便振替 02240-5-102650  
 ホームページ 《再処理/岩手の環境》  
<http://sanriku.my.coocan.jp/>  
 《本紙の全バックナンバー掲載》



《**天恵の海**》  
 2019(令和元)年  
 5月13日  
 第196号  
 編集事務局 S.Oshida  
 TEL・FAX 019-623-1636

福島県民健康調査検討委員会

福島原発事故から8年

## 小児甲状腺がん検査結果

対象者38万人中 **摘出手術 169人**  
 (事故時18才以下)  
 公表数以外にも **多数の摘出手術事例**

これまでの罹患率なら  
**38万人7年間で 約5人**

約 **33倍** 以上の  
**多発!**

福島県民健康調査、第三四回検討委員会が四月八日、福島市内で開催されました。二〇一一年(平成二三年)の事故発生時に一八歳以下であった子供達約三八万人を対象に小児甲状腺検査が行われておりますが、今回で四巡目に入り、検査結果が公表されました。

### 従来の全国罹患率一・九人/百万人・年

検査開始以来、二二人の「がんの疑い」が発見され「一六九人」ががんとして手術されました。一九九七年〜二〇〇七年の全国の小児甲状腺がん罹患率は年に百万人あたり一・九人(国立癌研センター統計・注)でした。これを福島県民調査対象者三八万人に当てはめると〇・七二人になります。この三八万人が毎年受診した場合、七年間で約五人の罹患者が出ると計算できます。ところが、**現実はいくらまでの平均値の約三倍にもなる一六九人です。**とんでもない多発で、当然、福島原発事故の放射性物質ヨウ素を疑うべきです。

### 事故時十八才以下を守り抜く甲状腺健診を!

今回、新たに四人が「悪性のがんの疑い」とされ、うち二人は「二五歳節目検査」で見えましたが、未だ手術されていません。一昨年以来、この『県民調査』集計から外れてがん手術が行われていた事例が報告され、納得のゆく説明が求められています。しかし、今回も真相は不明です。

### 学齢期以下の年齢固定検査も実施せよ

福島原発事故被曝検査対象者も当時の一八歳が二五歳の社会人となり、児童・生徒年齢のような学校を通じた受診が困難になっています。そもそも、原発事故二年目以降に生まれた現在の児童・生徒は「健診対象」になっていません。『県民健康調査』にふさわしい実効ある制度へ早急に改革が求められます。

(注) 国立癌研センター統計 <http://sanriku.my.coocan.jp/1905thyroidcan.pdf>

# 福島県民健康調査甲状腺検査 集計表

検査回数	呼称	年度	対象者総数	受診者	受診率	穿刺吸引細胞診			がん手術済
						受診者	経過観察	悪性の疑い	
1巡目	先行検査	2011-2013	367,637	300,472	82%	547	431	116	102
2巡目	本格検査	2014-2015	381,244	270,540	71%	207	136	71	52
3巡目	本格検査	2016-2017	336,669	217,676	65%	64	43	21	15
4巡目	本格検査	2018-2019	293,945	76,979	26%	6	4	2	0
25歳	節目検査	2017	22,653	2,005	9%	3	1	2	0
合計						827	615	212	169

### 福島県民健康調査: 甲状腺評価部会

\*第1回〜第12回(直近)部会までの公表資料から作成

\*このほかに福島県立医大外来で手術12人

福島県ホームページ <http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/kenkocyoa-kentoiinkai-b.html>

# 甲状腺摘出手術

摘出された甲状腺がん



**続々と判明 集計外の手術**  
 『県民健康調査報告』の一六九人以外にも、小児甲状腺がん手術の事例が判明し、大問題になっています。それは①市民団体の「甲状腺がん子ども基金」の受給者から福島県内外の病院で手術した事例が判明した。②福島県立医科大学の甲状腺外来患者一二人について医大当局が「集計外」と認められた。③「福島県甲状腺検査サポート事業」の統計に多数の集計外があった。この原因として、健康調査委員会の集計では、「経過観察」の人が「健康調査」ではなく一般外来へ通院し、集計から外れたと説明しています。

白石草 講演会 (Uチューブ) ourPlanet-TV 動画  
 「小児甲状腺がん 200 人のかけで何が起きているのか」  
<https://www.youtube.com/watch?v=4I03NIAn940>

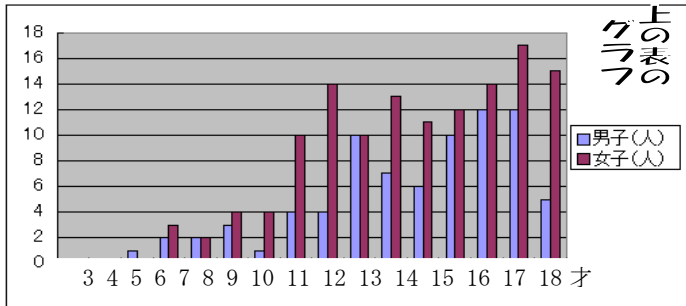
## 福島県民健康調査 「甲状腺がんの疑い」事故時年齢分布 一巡目～三巡目まで集計

第34回検討委員会 参考資料1 甲状腺検査結果の状況 (PDF) から作成  
<http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/320491.pdf>

2018年度の年齢(歳)	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	
事故時年齢(歳)	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
「疑い」男子(人)			1	2	2	3	1	4	4	10	7	6	10	12	12	5	79
「疑い」女子(人)				3	2	4	4	10	14	10	13	11	12	14	17	15	129
合計			1	5	4	7	5	14	18	20	20	17	22	26	29	20	208

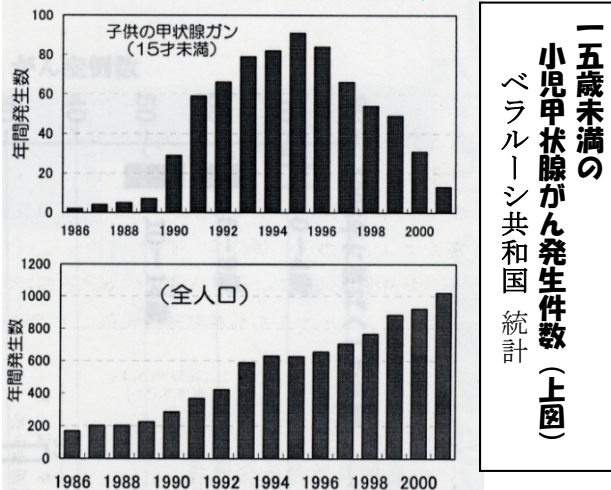
\*この表以外に「がんの疑い」・四巡目本格検査で男女各1、25歳節目検査で男女各1あり。未手術。

## 「甲状腺がんの疑い」事故時年齢分布



**二五歳節目健診から二つのがんの疑い**  
 上の表と左のグラフは小児甲状腺評価部会発表の一巡目～三巡目の「年齢別分布」を合算して作成しました。事故当時一八歳であった人も昨年度で二五歳です。この二五歳の人には「節目検査」という形で検査が行われ受診率は9%で、残念ながら低率です。成人になると親元をはなれ、福島県外で生活をする人が多くなります。だから受診率は低くなります。だから受診問題はその受診者約二

## チェルノブイリの甲状腺がん統計



**一五歳未満の小児甲状腺がん発生件数(上図)**  
 ベラルーシ共和国統計  
 小児甲状腺がんは、原発事故で大気に放出されたヨウ素131という半減期の比較的短くその分強力な放射線を出す物質が、感受性の高い子供達の甲状腺細胞を傷つけるために起こります。チェルノブイリの甲状腺がん統計を見ると事故時幼少だった人が一五才となって統計から外れ、事故後生まれた世代が発症して

## ベラルーシの年齢固定統計に学べ!

小児甲状腺がんは、原発事故で大気に放出されたヨウ素131という半減期の比較的短くその分強力な放射線を出す物質が、感受性の高い子供達の甲状腺細胞を傷つけるために起こります。チェルノブイリの甲状腺がん統計を見ると事故時幼少だった人が一五才となって統計から外れ、事故後生まれた世代が発症して

・二万人中から二人が「がんの疑い」という結果が出たことです。今後

も増える可能性もあり継続した検査が必要で、対象者の健康を守る「早期発見、適切な治療」という原則を堅持しながら、万全の対策を取るべきです。

今中哲二 (京大原子炉実験所) 原子力安全問題ゼミ  
 チェルノブイリ20年: 事故の経過 汚染 補償 影響  
<http://www.rri.kyoto-u.ac.jp/NSRG/seminar/No102/imanaka060414.pdf>